

# 進路相談における自己理解について

—— 自己理解診断検査を手がかりとして ——

藤 田 広\*

この報告は中学校第3学年男子を対象として、自己理解診断検査（進路指導用）を実施し、生徒各自の自己理解の構造や能力を分析し、それを進路相談の資料とした事例である。その結果進路相談では、生徒の自己理解の構造や能力を明らかにさせ、相談の基盤として生徒の自己理解能力を高めなければならないということが明らかにされた。

## はじめに

進路の指導は、学校教育のなかで計画的になされなければならない。生徒個々の自己理解の基盤の上に立った指導が必要である。進路の指導において、その重要な内容のひとつとして、「自己理解能力の育成」ということがあげられている。特別活動、学級指導の進路の時間において、自己理解能力はつちかわれなければならないが、より集約的な場としての進路相談で、それは、深めなければならないと考える。

## I 研究の目的

効果的な進路相談を展開するための資料として、中学3年生の自己理解の態様を明らかにする。

## II 対 象

中学校第3学年男子25名

## III 研究の方法

- (1) 自己理解診断検査（日本文化科学社 発行）
- (2) 進路相談の実施

## IV 研究の手順

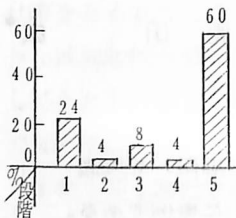
- (1) 検査結果を分析する。
- (2) 検査結果から自己理解度の低・中・高の生徒各1名に対して、進路相談をおこなう。
- (3) 3事例から、進路相談における自己理解能力について考察する。

\* 豊栄市立長浦中学校

## V 自己理解診断検査の結果とその考察

### (1) 検査結果について

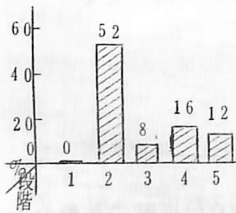
この検査は自己理解について6分野50項目の質問で構成されている。以下○の中の数字は問題番号を示す。



(図1) 居住地

#### A 居住地関係についての自己理解

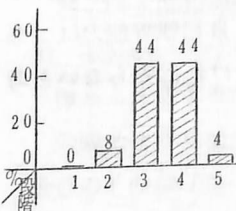
この項は①出生地②本籍地③現住所に関する自己理解をみる。図1によれば3問とも理解度は高いが、番地名まで書かなかったり不正確であったものが40%である。



(図2) 家庭の職業

#### B 家庭の職業についての自己理解

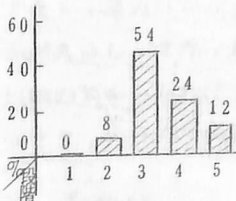
この項は④保護者の職業、家庭の職業に対する⑤興味および⑥価値評価に関する自己理解をみる。図2によれば、2の段階が52%で、家庭の職業内容および保護者の職業について、具体的に理解していないものが多いことがわかる。



(図3) 教育歴

#### C 教育歴関係についての自己理解

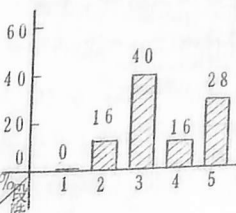
この項は⑦卒業学校名⑧学校長と担任の氏名⑨欠席状況⑩入学校の事前調査教科の⑪好き⑫きらい⑬クラブ活動⑭読書への関心⑮尊敬する人⑯趣味⑰将来の活動への希望⑱モットーに関する自己理解をみる。図3によれば、3と4の段階が88%で普通、ややよいの理解度を示している。教科の好き・きらい、クラブ活動については、具体的にはっきり書いてあるが、読書への関心や尊敬する人、将来の活動への希望などは、あいまいで具体的ではない。モットーについては、無答やないと答えたものが72%であった。



(図4) 身体関係

#### D 身体方面についての自己理解

この項は⑲身長⑳体重㉑健康㉒音声㉓発音㉔視力㉕聴力㉖内臓の機能㉗腕の力㉘足の力㉙器用さに関する自己理解をみる。図4によれば、自己の身体のことなので理解度は高い。しかし、身長・体重・視力など計測したにもかかわらず、実測値を正確に知らないものが多い。



(図5) 精神方面

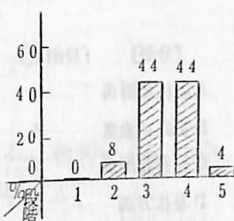
#### E 精神方面についての自己理解

この項は③⑩耐久力③⑪感覚の弁別能力③⑫言語能力③⑬理解の能力③⑭書記的能力③⑮機械への能力③⑯応接の技術③⑰指導性・リーダーシップ③⑱容姿③⑲対人的言語③⑳協力の態度③㉑共同の態度③㉒責任の意識③㉓対人感情の易変性③㉔他人の成功観③㉕従属性・フォロアシップに関する自己理解をみる。図5によれば、3の段階40%、5の段

階 28%であるが、全項目とも内容的・具体的理解に乏しい。感覚の弁別力・指導性・対人的言語・協力の態度・他人の成功観・従属性については、具体的なものはごく少数で大部分は抽象的・概念的であった。

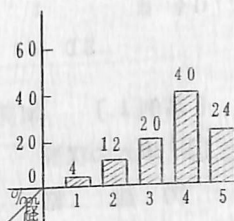
#### F まとめの分析

この項は自分の意識する④⑥長所⑦短所⑧進路への指向、進路の⑨希望⑩計画に関する自己理解である。図6によれば、普通、かなりよく理解しているが88%であり、自己の長所について説明的・具体的なものはひとりもいなかった。短所・進路への指向・希望・計画についても理解内容が勉強をいっしょけんめいやりたいたいといった程度で具体性が乏しい。



#### G 全体の合計

この項は各分野の得点合計を偏差値に換算し、5段階に評定したもので、自己理解度の総合判定を示す値である。A～Fまでの分野で居住地関係・家庭の職業についての理解度が低かったが、図7によれば全体として4の段階が40%あり理解はよい。



(図7) 全体の合計

### (2) 考察

検査対象生徒の自己理解能力の各分野での平均を調べてみると、つぎのようであった。

Aの平均	3.6
Bの平均	2.7
Cの平均	2.3
Dの平均	3.4
Eの平均	3.7
Fの平均	3.2

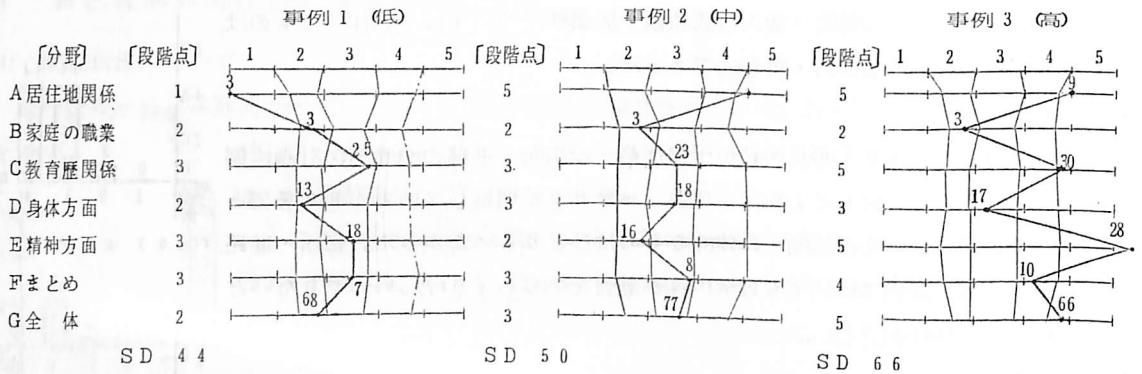
A, D, E, Fについての自己理解能力は、普通程度である。B, Cについては理解度がやや低いので、指導に重点をおかなければならない。農村地区なので、ほとんど家庭の職業が水稲単作で内容が単調なため、日常生活では職業について深く考える必要感がうすい。

## Ⅶ 進路相談の事例とその考察

### (1) 事例

自己理解診断検査の結果から、自己理解度の、低・中・高の生徒各ひとりに対して進路相談をおこなった。

## 自己理解診断プロフィール (3事例)



〔事例1〕 M男 中学校第3学年 (自己理解診断検査 段階 2)

## ① 本人の現況

(ア) 性格 お人よしで、他人の言動に左右されやすい、調子にのりしまりがない。一面意地張りで他人をよく批判する傾向がある。3年生になって学習面で意欲的にとりくむ様子がみられる。応援団幹部として積極的に活動している。工作部員でラジオの製作に興味がある。

(イ) 標準検査 新制田中B式知能検査 偏差値 47  
 職業興味検査(金子書房) 戸外 機械 科学  
 職業適性検査(金子書房) 下位～書記・言語・数的・思考 上位～形態・動作  
 自己理解診断検査(日本文化科学社) 段階 2

(ウ) 学力 中の下

(エ) 家庭環境 父 47才 農業 姉 20才 店員  
 母 45才 農業(米菓工場勤務) 兄 17才 高校2年  
 兄 24才 工員 本人15才 中学3年  
 水田1.5ha 畑6a 生活中程度

## ② 相談の経過

## ○ 第1回

生徒 ; 自分の長所については、はっきり言えないが、短所は短気である。進路については、兄も高校にいらっているので高校へは入学したい。両親と進路について話し合うことは少ない。  
 教師 ; 進路に対してははっきりした考えをもっていない。高校卒業後就職したいと、ばく然と考えている様子で具体的なものがでてこない。

## ○ 第2回

生徒 ; ラジオを作るのに興味があり、今までに2台製作した。カメラも好きで時々写真をとる。ほんとうは工業高校に行きたいが、成績の点で不安があるので、普通科を希望する。  
 教師 ; 自己理解度は段階2で低い。希望と現実は一致していない。他の進路(職業訓練所)を

ふくめて考えていかなければならない。

〔事例2〕 K男 中学校第3学年 （自己理解診断検査 段階 3）

① 本人の現況

(ア) 性 格 友だちと仲よく生活しているが、受動的でおひとよしの面がある。親切いっばいの生徒だが、行動に軽率な面がある。ろう球部で積極的に活躍している。

(イ) 標準検査 新制田中B式知能検査 偏差値 43  
職業興味検査 説得 奉仕  
職業適性検査 下位～数的 上位～書記・形態  
自己理解診断検査 段階 3

(ウ) 学力 中の下

(エ) 家庭環境 父 49才 農業 姉 18才 高校  
母 49才 農業 本人15才 中学  
兄 20才 電気工事店員 妹 10才 小学校  
両親とも農閑期にブロック工事に従事し、中程度の生活状態

② 相談の経過

○第1回

生徒 ; だれとでも気やすく話ができるが、相手の気になるようなことは口に出せないで、こまることがある。ろう球部員になっていると、友だちとのつき合いがうまくいくのでよい。高校は希望するが、成績が悪く不安である。商業科に進んで県外就職し、セールスマンか店員になりたい。

教師 ; 学習はふるわないが、クラブ(部)活動でいきいきと活躍している。希望は、はっきりしているが学力の面から他の進路も考えにいれて相談する必要がある。

○第2回

生徒 ; 前回の相談と様子が変わり、工業高校機械科を希望し、自動車の仕事をやりたい。しかし、学力の面で主任と相談するときは困る。

教師 ; 自己理解診断検査は普通(3)の段階で、教育歴、精神面の理解はあまりよくない。希望を変更した点、ほりさげて相談する必要がある。

〔事例3〕 S男 中学校第3学年 （自己理解診断検査 段階 5）

① 本人の現況

(ア) 性 格 きちようめんな性格で自分の仕事は積極的でいいのである。友だちの間では目だった存在ではないが、地道にこつこつやる生徒である。工作部長で立案や計画を前向きにやり、木工作品はりっぱな作品をつくる。

(イ) 標準検査 新制田中B式知能検査 偏差値 60



職業興味検査	科学
職業適性検査	下位～形態    上位～書記・数的・動作
自己理解診断検査	段階    5

(ウ) 学 力 上

(エ) 家庭環境 父 43才 農業                      姉 17才 高校

母 43才 農業                      本人15才 中学

兄 19才 農業講習所生

水田 1.3 ha    畑 0.2 ha    両親で農業経営，兄は卒業後農業に従事する。

## ② 相談の経過

## ○ 第1回

生徒 ; 友だちは気の合ったものが少ない。自分の長所・短所ははっきりことばで表現できないが、短気である。工作部でこまかい仕事をするのが好きで、工業高校機械科を希望している。

教師 ; 気まじめで、はばのない面があるが責任ある仕事を確実にやる。工作部ではよいアイデアを示す。

## ○ 第2回

生徒 ; 希望は前回と同じだが、機械科希望はそんなにかたまった考えではない。工業のどの科にするかはこれからよく考える。

教師 ; 希望課程の決定は、これから考えるとして、自己理解診断検査では居住地・教育歴・精神面の理解が高い。科学に興味あり適性を考察して希望をみきわめることがたいせつである。

## (2) 3事例からみた自己理解についての考察

自己理解診断検査の結果を生徒に提示して相談したので、生徒は自己のプロフィールを自身で受けとめて相談にのぞむことができたと考えられる。事例1は居住地の理解で1の段階で当然知っていなければならない所番地が理解されていない。身体面でも実測値に弱点があり、希望もはっきりしない自己の弱点をはっきり意識させなければならない。事例2は、居住地理解は高いが他の分野は2～3で、全体で理解度を高めるよう本人に知らせ自己理解の深化を意識させて、自分自身をみつめさせる必要がある。事例3では、全体に理解度が高いが、家庭の職業についての具体性が乏しい。希望ははっきりしていて相談も具体的であるが、本人の弱点を理解させることがたいせつである。

## Ⅶ まとめ

生徒個々の自己理解が進路の相談の基盤だと考えられるので、自己理解の構造、能力を分析し検査の分野ごとに自己理解プロフィールによる長所、短所を知り、学級全体の傾向、個人の傾向を理解し、理解の弱点を明らかにして、教師が生徒の側に立って相談にあたれば、生徒の前向きな相談態度ができるのではないかと考えられる。自己理解能力を高めるため、他の検査も併用して理解の深化をはからなければならない。